

山陽学園大学大学院 「2019年度履修ガイド・授業概要(Syllabus)」より抜粋

山陽学園大学大学院
看護学研究科看護学専攻
(修士課程)

授業概要 (Syllabus)

授業科目名 看護理論			担当者 奥山 真由美		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 高度な看護実践あるいは看護研究の基盤となる看護理論の基本概念について理解する。諸理論の強みと弱みを討議し、実践、教育、研究への応用の可能性について検討する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 看護とは何か、看護学とは何か 2. 看護理論 3. 理論の開発 4. 理論の評価 5. 理論の紹介と分析(オレム) 6. 理論の紹介と分析(ワトソン) 7. 理論の紹介と分析(ベナー) 8. 理論の紹介と分析(ロイ) 9. 概念分析とは何か 10. 文献クリティーク(概念分析) 11. 文献クリティーク(概念分析) 12. 文献クリティーク(サブストラクション) 13. 文献クリティーク(サブストラクション) 14. 看護実践における理論の活用と考察 15. 関心のある概念についての発表とまとめ		
【到達目標】 1. 諸看護理論の基本概念について理解する。 2. 自分の実践、教育、研究の基盤となる理論について理解を深め、応用可能性を探求する。					
【準備学習の内容】 看護理論の文献を複数予習する。					
【留意事項】 看護理論家の講演があれば積極的に参加する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 作成したプレゼンテーション資料やプレゼンテーションの方法、内容等について、希望者に対し、各授業の終了時にコメントを行う。			【テキスト】 適宜指示する。		
			【参考図書】 看護学の概念と理論的基盤 日本看護協会出版会 看護における理論構築の方法 医学書院		

授業科目名 看護研究			担当者 揚野 裕紀子・高木 二郎		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 看護研究の重要性とその意義、研究倫理、研究課題の明確化、文献検討、研究計画書の作成など看護実践や教育の場で共通して活用できる看護研究の知識を深め、看護実践への適用の仕方を判断する能力を高める。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 看護研究とは何か、看護研究の重要性とその意義(揚野) 2. 文献検討の意義とその方法(揚野) 3. 質的研究の意義と方法論、質的研究の理論と哲学的背景(揚野) 4. 援助者の視点と研究の倫理的限界、質的研究におけるデータ収集、分析の視点(揚野) 5. 質的研究における研究の視点とデータ分析、考察(揚野) 6. 質的研究の文献クリティーク: 質的記述的研究、グランデッドセオリー、エスノグラフィ(揚野) 7. 量的研究の意義とその方法の概要(高木) 8. 量的研究の調査方法、質問紙の作成、データ分析法、統計的手法(高木) 9. 尺度開発(信頼性、妥当性)(高木) 10. 量的研究の文献クリティーク(高木) 11. 実験的研究の意義とその方法の概要(高木) 12. 実験研究と準実験研究、実験研究の条件(高木) 13. 実験研究のプロセス: 仮説の設定、対象の設定、データ収集、分析方法他(高木) 14. 実験研究の文献クリティーク(高木) 15. まとめ: 研究方法論をめぐる議論(揚野・高木)		
【到達目標】 1. 基本的な方法論を中心に、理論的基盤、データ収集、分析方法などについて理解できる。2. 論文をクリティークし、看護実践への有用性及び適用の仕方について考えることができる。					
【準備学習の内容】 関心のある研究分野の文献を取寄せクリティークを行い予習すること。					
【留意事項】 学会があれば積極的に参加すること。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席及び授業での発言などの参加度(発表、討議)、レポートで総合評価する。レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。			【テキスト】 適宜紹介		
			【参考図書】 ポーリット&ベック(2010)近藤潤子監訳:看護研究 原理と方法 第2版、医学書院 黒田裕子:看護研究 Step by Step第4版、医学書院 疫学-医学的研究と実践のサイエンス Leon Gordis (著), 木原正博(翻訳), 木原雅子(翻訳), 加治正行(翻訳) 出版社: メディカルサイエンスインターナショナル (2010/6/1) ISBN-10: 4895926478, ISBN-13: 978-4895926478		

授業科目名 看護倫理			担当者 石本 傳江		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 授業概要:看護実践において看護師が直面する倫理的ジレンマや課題を抽出し、看護実践者として倫理的アプローチを用いて問題解決をするための調整能力を培う。 授業の進め方:講義、グループ討議、プレゼンテーション			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 看護実践現場における倫理的課題と看護師の役割について 2. 看護倫理の成立と歴史的背景—医療の高度化・複雑化・科学化、患者の権利の発生とその尊重 3. 看護倫理学におけるアプローチ法—徳の倫理、原則の倫理、ケアの倫理の基礎理論と応用、看護専門職としての規範—法律と倫理の相違と関連 4. 論と応用、看護専門職としての規範—法律と倫理の相違と関連 5. 看護専門職としての倫理的取り組み—看護倫理の重要概念(ケアリング、アドボカシー、協力、責務)、看護倫理綱領の変遷とその意義・構成及び活用方法 6. カシー、協力、責務)、看護倫理綱領の変遷とその意義・構成及び活用方法 7. 看護実践に関わる倫理的課題への対応—看護師の価値観と倫理的判断・行為、倫理的意思決定のプロセス、インフォームド・コンセントと意思決定能力、及び支援の 8. あり方 9. 看護専門職に求められる倫理的意思決定のプロセス、倫理的ジレンマの事例検討 10. ① 11. 看護実践場面におけるアドボカシー・倫理的意思決定のプロセス、倫理的ジレンマ 12. の事例検討② 13. 苦痛の緩和に関わる患者・家族の意思決定と医療者の協働、倫理的対処の課題 14. 看護実践現場における倫理的課題のアセスメント、その対処の考え方 15. 看護専門職と実践現場における看護研究の倫理的問題、倫理委員会の役割		
【到達目標】 看護現場において生じる倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行うために必要な知識を理解できる。また、具体的な臨床場面での倫理的課題の分析とアプローチ法が説明できる。			【テキスト】 担当教員より事前に提示する。		
【準備学習の内容】 事前学習が必要、指定の論文を購読し課題を提起できるように準備する。			【参考図書】 1)サラ T. フライ:看護実践の倫理(第2版)日本看護協会出版会,2005. 2)看護者の倫理綱領(日本看護協会,2003)6)ICN看護師の倫理綱領(国際看護師協会,2000) 3)小林道憲:複雑系社会の倫理学,生成変化の中で行為はどうあるべきか,ミネルヴァ書房,2000. 4)加藤尚武:現代倫理学入門,講談社学術文庫,1997.		
【留意事項】 実践と理論を関連付けて学習し、事例分析の方法を身につける。			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 講義の理解度、グループ活動への参加度、プレゼンテーション、レポートを総合して評価する。必要とされる事項については、講評を行う。		

授業科目名 看護教育論			担当者 池田 敏子・揚野 裕紀子 他		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 看護および看護教育の現状と課題、看護教育に必要な基礎的理論を教授する。さらに看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境を整えるなど、看護の継続教育に関する知識と技術を教授する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス、看護の現状と課題提起 2. 医療・看護及び看護教育の変遷 3. 看護制度及び看護政策の今日的課題、看護及び看護基礎教育における今日的課題 4. 題、教育機関の運営・管理、生涯教育・継続教育における今日的課題 5. 教育の基本と看護教育独自の教育論、看護観育成と生涯教育、成人教育の基本 6. 専門職者、指導者、管理者として必要な教育論 7. 教育の基本:カリキュラム 8. 看護教育カリキュラムの作成概要 9. 生涯教育・継続教育に必要なカリキュラム作成の実施 10. 11. 専門看護師に必要な教育、継続教育とキャリア開発 12. 看護ケアの評価 13. 臨床における教育環境、ケア改善のための提案 14. 看護ケアの質向上のための研究的取り組み 15. 学習課題の達成度を評価		
【到達目標】 ①医療及び看護の変遷から看護教育の課題と展望について考究できる。②看護教育に必要な基礎的理論が理解できる。③看護ケアの質向上のための教育に関する知識・技術を修得する。			【テキスト】 Gertrude Torres, Marjorie Stanton/ 近藤潤子, 小山真理子訳 看護教育カリキュラムその作成過程. 医学書院 その他:授業の中で紹介する。		
【準備学習の内容】 臨床や看護教育における現状を分析し課題を明らかにする。			【参考図書】 授業の中で紹介する。		
【留意事項】 特になし					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業への参加、発言状況、プレゼンテーション、レポート等、総合的に評価する。必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 看護管理論				担当者 笹谷 孝子・松浦 正子 他	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	大学院 1年	
【授業概要】 看護管理に携わる看護職と協力して、保健医療福祉に携わる人々の調整を行い、教育的・社会的役割を担うために、専門職として必要な知識を学び実践できる力を培う。			【学習内容(各回の授業予定)】		
【到達目標】 専門職としての先進的なチーム医療の在り方、組織マネージメント、経営管理、評価について理解し、改善策やその方略について探求する。			1. 看護管理の基本概念と理論、歴史的背景と管理の意義、文献紹介 2. 組織、システムとしての組織、個人・集団の行動 3. 看護管理の理論構造、意思決定と問題解決の理論的構築 4. 日本における歴史的背景と看護管理 5. 日本の医療と看護師の役割 6. 米国における看護管理と質の保障の発展過程とその課題 7. 諸外国の看護管理とその変革について 8. 看護サービスと質の保障について 9. リスクマネージメント、マネージメント理論 10. 管理の実践プロセスと評価の在り方と諸理論 11. 医療における質の保障、評価(構造、過程、結果) 12. 保健医療福祉に関連する人々と看護管理との連携、経営管理論の変遷 13. 医療、看護サービスにおける質保障とその評価 14. 専門看護師、看護管理者に求められる能力と今後の課題 15. 諸理論とその実践適用、変革を求めている課題についての検討		
【準備学習の内容】 自らが所属する組織の課題を提起できるように、問題意識を持って取り組む。			【テキスト】 毎回講義資料を配布する		
【留意事項】 看護管理学会などへの積極的な参加を通して、看護管理、マネージメントへの関心を持ち、日々の実践から学ぶ。			【参考図書】 適時紹介する		
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 課題レポート(100%)により行う。					

授業科目名 コンサルテーション論				担当者 高木 二郎	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	大学院 1年	
【授業概要】 看護職を含む保健医療福祉のケア提供者に対して実践的な問題解決のコンサルテーションの役割と機能について理解する。コンサルテーションの理論をカプラン、リピットとリピットの古典から学び、実践への応用について考察する。			【学習内容(各回の授業予定)】		
【到達目標】 1.コンサルテーションのカプランの4つのモデルを理解する。2.リピットとリピットのコンサルタントの役割を理解する。3.コンサルテーションのプロセスを理解する。4.実践への応用を理解する。			1. コンサルテーションの基本。リエゾン、スーパービジョン、教育、直接ケアとコンサルテーションの差異 2. カプランのコンサルテーションの4つのモデル(原著講読) 3. カプランのコンサルテーションの4つのモデル(原著講読) 4. リピットとリピットのコンサルタントの8つの役割(文献講読) 5. リピットとリピットのコンサルタントの8つの役割(文献講読) 6. リピットとリピットのコンサルタントの8つの役割(文献講読) 7. コンサルテーションの実際 患者中心のコンサルテーション 8. コンサルテーションの実際 コンサルティ中心の事例のコンサルテーション 9. コンサルテーションの実際 管理中心のコンサルテーション 10. コンサルテーションの実際 コンサルティ中心の管理のコンサルテーション 11. コンサルテーションの実践報告 12. コンサルテーションの実践報告 13. 様々な分野におけるコンサルテーション 14. 高度専門分野におけるコンサルタントの役割 15. 高度専門分野におけるコンサルタントの役割		
【準備学習の内容】 英語の文献を輪読していくので、英文に慣れておくようにする。			【テキスト】 授業時に指定する		
【留意事項】 特になし			【参考図書】 適時紹介する		
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験はおこなわない。授業時の文献講読(10回)とレポート提出(3回)によって評価する。必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 国際医療論			担当者 菅波 茂 他		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	大学院 1年	
【授業概要】 国際的な視点から医療・看護を理解する。グローバル化した時代における看護師の役割を学び、国際的な視点を持って看護ができる力を探求する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 医療看護の国際化 2. 諸外国の最新の医療・看護事情 英国 3. 諸外国の最新の医療・看護事情 英国 4. 諸外国の最新の医療・看護事情 米国 5. 諸外国の最新の医療・看護事情 米国 6. 諸外国の最新の医療・看護事情 タイ 7. 諸外国の最新の医療・看護事情 タイ 8. 諸外国の最新の医療・看護事情 中国 9. 諸外国の最新の医療・看護事情 中国 10. 諸外国の最新の医療・看護事情 インド 11. 諸外国の最新の医療・看護事情 インド 12. 国・文化・そして医療 13. 日本の医療面の国際貢献 14. グローバルな立場に立つ世界の人々の健康 15. 国際化そして日本の医療		
【到達目標】 1. 国際的な視点で医療・看護を考えることが出来る。 2. 諸外国の最新の医療・看護事情を理解する。 3. 先進国の取り組みと課題について理解する。 4. 発展途上国の課題とその国・地域ならではの取り組みを理解する。 5. グローバルな視点で健康課題を考えることが出来る。			【テキスト】 国際医療論 日本放射線技師会出版会		
【準備学習の内容】 国際的な健康に関する動向に関心を払う。			【参考図書】 適時紹介する。		
【留意事項】 国際人としての素養を身に付ける。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 課題レポート、授業の参加を総合して評価する。必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 臨床薬理学			担当者 千堂 年昭		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	大学院 1年	
【授業概要】 学部で学んだ基本的知識をもとに、チーム医療の中で医薬品の適正使用に対応できる実践的な知識とともに問題点解決能力を身につけられるように講義を進める。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 臨床薬理学の概念と定義 2. 臨床薬物動態学と薬物相互作用 3. 治療方針の決定や薬剤選択に必要な治療ガイドラインやEBMの実践 4. 各疾患に対する適切な薬物療法および代表的な医薬品の用法・用量・投与計画の考え方 5. 医療の個別化(個々の患者に最適なテーラーメイド医療) 6. エビデンスに基づく薬物治療 (1)循環器系 7. エビデンスに基づく薬物治療 (2)消化器系 8. エビデンスに基づく薬物治療 (3)呼吸器系 9. エビデンスに基づく薬物治療 (4)糖尿病・脂質異常症 10. 栄養管理における医薬品の適正使用 11. 長期療法に付随する合併症の薬物療法 12. 緩和医療における薬物療法 13. 感染制御における医薬品適正使用 14. 救急医療現場における医薬品 15. 医薬品開発にかかわる臨床試験		
【到達目標】 エビデンスに基づく高度な薬物療法を他職種とともに協働して実践できる看護師を養成するのが目標である。			【テキスト】 毎回、講義資料を配布する		
【準備学習の内容】 基礎薬理学			【参考図書】 臨床薬理学 第3版 日本臨床薬理学会編集 医学書院		
【留意事項】 講義を通して薬物療法に関する問題点を解決する習慣を身につけること。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1. 出席 2. ミニテスト 3. レポート 以上による総合評価 必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 病態生理学			担当者 高橋 聖之		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
			配当年次	大学院 1年	
【授業概要】 医療、看護の実践の場において、基本となるのが病態生理である。実地臨床上よく遭遇する症候と、それらの症候を呈する主要な疾患の病態生理を学ぶ。 典型的な症例について、症状、所見からその病態生理を考える演習を行う。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 悪心・嘔吐・腹痛の病態生理 2. 発熱・脱水の病態生理 3. 貧血・出血傾向・静脈血栓の病態生理 4. ショック・チアノーゼ・意識障害の病態生理 5. 浮腫・黄疸・食欲不振・過食の病態生理 6. 頭痛・高血圧・めまいの病態生理 7. 呼吸困難・咳・痰の病態生理 8. 腹水・腹部膨満・胸水・肥満・るいそうの病態生理 9. 胸痛・不整脈・動悸の病態生理 10. 乏尿・無尿・多尿・頻尿・血尿の病態生理 11. 神経麻痺(運動麻痺、感覚麻痺)・痙攣の病態生理 12. 下痢・便秘・口渇・吐血・下血の病態生理 13. 視力障害・耳鳴・嚥下障害・リンパ節腫脹の病態生理 14. 症例報告とディスカッション(1) 15. 症例報告とディスカッション(2)		
【到達目標】 患者の症状、所見から病態生理を推測することができ、それに基づいた看護を実践できる。 治療の病態生理学的意義がわかり、患者に病態生理に基づいた疾患・症状・治療の説明ができる。			【テキスト】 知りたいことがすぐわかる病態生理 疾患編および症候編、川崎市立川崎病院、へるす出版		
【準備学習の内容】 テキストによる事前学習が必要。			【参考図書】 ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち 病態生理学メディカ出版 症状の基礎からわかる病態生理 第2版 松尾理 監訳 メディカルサイエンスインターナショナル		
【留意事項】 特になし。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席状況、プレゼンテーションを総合的に評価する。 必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 フィジカルアセスメント			担当者 村田 幸治		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
			配当年次	大学院 1年	
【授業概要】 身体の症状・徴候を包括的、系統的に観察し、身体機能をアセスメントするための専門的な技術を学ぶ。 講義形式を基本とするが、内容によっては問診や身体診察などの能動的要素を取り入れた授業や、事例を用いた討論形式での授業を行う予定。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. フィジカルアセスメントの概念、フィジカルアセスメントに必要な技法(1) 2. フィジカルアセスメントに必要な技法(2) 3. 系統的観察とアセスメントの実際(1):呼吸器系のアセスメント 4. 系統的観察とアセスメントの実際(2):循環器系のアセスメント 5. 系統的観察とアセスメントの実際(3):消化器系のアセスメント 6. 系統的観察とアセスメントの実際(4):感覚器系のアセスメント 7. 系統的観察とアセスメントの実際(5):運動器系のアセスメント 8. 系統的観察とアセスメントの実際(6):神経系のアセスメント 9. 症状・徴候からのフィジカルアセスメント(1):精神疾患のアセスメント(認知症を中心に) 10. 症状・徴候からのフィジカルアセスメント(2):低栄養状態のアセスメント 11. 症状・徴候からのフィジカルアセスメント(3):がん疼痛のアセスメント 12. 症状・徴候からのフィジカルアセスメント(4):がん患者の精神的症状についてのアセスメント 13. 事例を用いたフィジカルアセスメント(1):主要症状の鑑別診断と事例検討など 14. 事例を用いたフィジカルアセスメント(2):主要症状の鑑別診断と事例検討など 15. 事例を用いたフィジカルアセスメント(3):主要症状の鑑別診断と事例検討など		
【到達目標】 ①複雑な健康問題のアセスメントに必要な基本的知識や技法を理解する。 ②対象の特性維持に性に応じたアセスメントを実施し、身体所見の正常・異常について総合的に判断・解釈できる。 ③学部レベルのフィジカルアセスメント授業の際に、学部学生に演習の指導ができるようになることを目指す。			【テキスト】 ・フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術(第4版)、日野原重明(編)、医学書院、2006 ・配布資料(プリント)		
【準備学習の内容】 次回の授業範囲を予習し、理解を深めておくこと。			【参考図書】 必要に応じて、講義中に提示する。		
【留意事項】 特になし。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 毎回の講義内容についてのブリーフレポート(60%)と、総合的な演習(40%)にて評価する。					

授業科目名 感染看護学特論			担当者 渡邊 都貴子・林 由佳		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 近年、感染症のパンデミックや多剤耐性菌の世界的な蔓延、輸入感染症の問題など、医療を取り巻く感染症の問題はグローバルな視点で捉えなければならない。一方、侵襲的な処置が頻繁に行われるようになり、医療関連感染のリスクはますます増強するとともに、医療の機能分化から、急性期施設と療養型施設、訪問看護領域などさまざまな分野が連携して感染対策をすることが求められる。本講義では、感染看護における最新の知識を提供するとともに、医療現場における感染管理上の問題点を抽出し、その解決方法を探求する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 感染看護概論 2. 病原微生物について 3. _____ 4. 感染と宿主応答機構(感染免疫)について 5. _____ 6. APIC参加。(参加できない学生は、別途課題を提示する) 7. _____ 8. 医療関連感染サーベイランス 9. _____ 10. 医療関連感染防止技術 11. 領域別医療感染防止技術 12. _____ 13. 感染症と疫学 14. _____ 15. まとめ		
【到達目標】 感染看護に必要な基礎知識を習得し、科学的根拠に基づいた感染看護が考究できる。			【テキスト】 別途提示		
【準備学習の内容】 授業範囲を予習し、理解を深める。			【参考図書】 随時提示		
【留意事項】 開講時に伝える					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席状況、プレゼンテーションを含むじゅぎゅへの参加度70%、レポート30%を総合的に評価する。単位認定に対するフィードバックを希望する学生には、個別に資料を基に説明をする期間を設ける。					

授業科目名 感染看護学演習			担当者 渡邊 都貴子・林 由佳		
単位数	4 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 感染看護学に関する最新の論文の批判的購読を行う。国内外の文献の購読を行い、グローバルに感染看護に関する研究の動向を知り、今後の自己の研究課題についてまとめる。また、感染防止技術を開発する為に必要な研究能力を修得し、特別研究のための研究計画書を作成する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1.2 感染看護に関する文献検索 3.4 感染看護に関する文献検索 5.6 関係論文の批判的読解 7.8 関係論文の批判的読解とプレゼンテーション 9.10 関係論文の批判的読解とプレゼンテーション 11.12 関係論文の批判的読解とプレゼンテーション 13.14 関係論文の批判的読解とプレゼンテーション 15.16 関係論文の批判的読解とプレゼンテーション 17.18 感染看護学における研究方法の理解 19.20 感染看護学における研究方法の理解 21.22 研究計画書の作成 23.24 研究計画書の作成 25.26 研究計画書の作成 27.28 研究計画書の作成 29.30 総括		
【到達目標】 エビデンスに基づいた感染防止技術を開発するための基本的な研究能力を習得し、特別研究のための研究計画書が作成できる。			【テキスト】 別途提示		
【準備学習の内容】 感染看護特論を履修(習得)し、復習しておく。			【参考図書】 随時提示		
【留意事項】 開講時に伝える					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席状況30%、プレゼンテーション30%、課題レポート40% 単位認定へのフィードバックを希望する学生は、個別に資料を基に説明を行う期間を設ける。					

授業科目名 成人看護学特論			担当者 村田 幸治		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 慢性・長期的な健康問題(慢性疾患)を持つ人と家族の特徴や看護のあり方について探究し、今後取り組むべき研究課題の概要を明らかにする。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 慢性看護領域の教育・実践・研究の変遷と動向 2. 慢性看護学領域の研究・実践の為の基本概念(1)セルフケア理論・ストレスコーピング 3. 慢性看護学領域の研究・実践の為の基本概念(2)行動変容理論・ヘルスピリーフモデル 4. 慢性看護学領域の研究・実践の為の基本概念(3)自己効力感モデル 5. 慢性看護領域の概念枠組み・モデルの探究 6. 慢性疾患を持つ人と家族の為の理論と概念の探究(1)セルフケア・セルフマネジメント 7. 慢性疾患を持つ人と家族の為の理論と概念の探究(2)ストレス・ストレスコーピング 8. 慢性疾患を持つ人と家族の為の理論と概念の探究(3)セルフエフェカシー・レジリエンス 9. 慢性疾患を持つ人と家族の為の理論と概念の探究(4)意味合い・折り合いをつける 10. 慢性看護領域に関する制度と体制 11. 文献検討による慢性看護領域の重要概念とエビデンス(1)プレゼンテーション・ディスカッション 12. 文献検討による慢性看護領域の重要概念とエビデンス(2)プレゼンテーション・ディスカッション 13. 文献検討による慢性看護領域の重要概念とエビデンス(3)プレゼンテーション・ディスカッション 14. セルフマネジメント教育 15. まとめ:課題の明確化		
【到達目標】 1. 慢性看護領域の研究・実践における主要理論・概念を理解する。 2. 慢性看護の専門性や役割を探究し、今後取り組むべき課題を明らかにする。			【テキスト】 別途提示する		
【準備学習の内容】 授業範囲を予習し、理解を深めておくこと			【参考図書】 別途提示する		
【留意事項】 特になし					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 プレゼンテーション・ディスカッション内容、学習態度、課題レポートから総合的に評価する。					

授業科目名 成人看護学演習			担当者 村田 幸治		
単位数	4 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 成人看護学特論で修得した知識を、演習し、文献検討を行う。また、自己の研究課題を明らかにするための研究方法を検討する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 文献検索 2. 文献検索 3. 関係論文の批判的読解 4. 関係論文の批判的読解 5. 関係論文の批判的読解 6. 関係論文の批判的読解 7. 関係論文の批判的読解 8. 関係論文の批判的読解 9. 関係論文の批判的読解 10. 関係論文の批判的読解 11. 研究計画書の作成 12. 研究計画書の作成 13. 研究計画書の作成 14. 研究計画書の作成 15. 総括		
【到達目標】 1. 慢性・長期的な健康問題(慢性疾患)を持つ人とその家族における研究課題を批判的に分析する。 2. 慢性看護学領域における自己の研究課題とその研究方法を検討する。			【テキスト】 別途提示する		
【準備学習の内容】 学習内容を予習し、理解を深めておくこと			【参考図書】 別途提示する		
【留意事項】 特になし					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 プレゼンテーション・ディスカッション内容、学習態度、課題レポートから総合的に評価する。					

授業科目名 在宅看護学特論			担当者 人見 裕江・奥山 真由美		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	大学院 1年		
【授業概要】 在宅で生活する療養者(高齢者とホスピスケアを中心)とその家族が持つ心身面での健康問題や生活上の問題について理解し、アセスメント方法、支援方法と支援内容等、在宅看護の特徴について理解する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. わが国における在宅看護の現状(1)(人見) 2. わが国における在宅看護の現状(2)(人見) 3. わが国における在宅ホスピスケアの現状(1)(人見) 4. わが国における在宅ホスピスケアの現状(2)(人見) 5. 在宅介護を支える介護者の現状(人見) 6. 在宅介護を支える介護者の現状(事例分析)(人見) 7. 在宅ホスピスケア(事例分析)(人見) 8. 在宅ホスピスケア(事例分析)(人見) 9. 在宅看護における困難事例(事例分析)(人見) 10. 国内外における高齢者の現状と課題を分析し実践への可能性を検討(奥山) 11. 在宅における高齢者を支える保健・医療・福祉システムと活用方法(奥山) 12. 在宅における高齢者および家族のQOLを維持・向上するための支援システムの展望と課題(奥山) 13. 地域で働く他機関・他職種との理解(人見) 14. 地域における保健・福祉・医療の連携と調整(事例分析)(人見) 15. これからの在宅看護(高齢者とホスピスケアを中心とした)の役割と課題の検討(人見)		
【到達目標】 地域の特性を考慮した在宅看護過程の事例を検討し、援助方法を身につける。			【テキスト】 別途紹介する		
【準備学習の内容】 プレゼンテーションできるように事例準備をしておく			【参考図書】 別途提示する		
【留意事項】 身近な事例を準備する					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 レポート、プレゼンテーション、討論参加度などで総合的に評価する。					

授業科目名 在宅看護学演習			担当者 人見 裕江・奥山 真由美		
単位数	4 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	大学院 1年		
【授業概要】 在宅療養者が望む安らかな死を迎えられるような終末期ケアについて学び、在宅看護における終末期の支援方法及び実践能力を向上させる。また、高齢者の生体機能とそのメカニズムについて理解し、陥りやすい症状とその予防および看護を理解する。課題を明確にするためのフィールドワークを行い、研究疑問を焦点化し、適切な研究デザイン、研究方法を選択する能力を修得する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1.2 終末期にあるがん患者の症状マネジメントおよび緩和ケアの方法を学ぶ(学内) 3.4 終末期にあるがん患者の症状マネジメントおよび緩和ケアの方法を学ぶ(学内) 5.6 在宅ホスピスについてVTR等からイメージアップする(学内) 7.8 在宅ホスピスについてVTR等からイメージアップする(学内) 9.10 演習:在宅における褥瘡発生のメカニズムと予防 11.12 演習:在宅における褥瘡発生のメカニズムと予防 13.14 演習:在宅における高齢者の生体機能とそのメカニズム 15.16 演習:在宅における高齢者の生体機能とそのメカニズム 17.18 演習:ステーションの概要、サービスの内容等の理解 19.20 演習:ステーションの概要、サービスの内容等の理解 21.22 演習:ステーションの概要、サービスの内容等の理解 23.24 演習:ステーションの概要、サービスの内容等の理解 25.26 演習で学んだケースについて討議し、学びを共有する 27.28 演習で学んだケースについて討議し、学びを共有する 29.30 演習で学んだケースについて討議し、学びを共有する		
【到達目標】 演習と討議を通して、在宅療養者が自分らしく安らかな死を迎えられるような終末期ケア・在宅看護支援の実践能力を身につける。			【テキスト】 演習:ステーションの概要、サービスの内容等の理解 必要に応じ、その都度提示する		
【準備学習の内容】 訪問看護ステーションの概要、在宅ホスピスについて文献を読んでおく。			【参考図書】 なし		
【留意事項】 ゼミ形式で進め、学生の疑問や関心を中心に、学生がリーダーシップを取って演習・討議をする。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 演習への事前準備、出欠状況、カンファレンスへの参加や討議内容、レポート等を総合的に評価する。					

授業科目名 コミュニティヘルス看護学特論			担当者 田村 裕子 他		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 人々の生活の基盤はコミュニティにあり、若者男女、職業・教育・経済状況等の異なる人、また健康・不健康・要支援者が共に暮らし、家族を構成し、学校や職場のアソシエーションも構成している。コミュニティの自然的・社会的環境は健康の重要な社会的決定因子となっており、国家や地球環境の影響も大きい。人の一生に深く係わる看護学(職)がこれらの原理・原則を理解し適切な看護活動が実践されるように教授する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. コミュニティヘルス看護学領域を構成する看護学-母子・学齢期(学校)・成人・高齢者、在宅、公衆衛生看護 2. コミュニティにおける健康課題の「原因究明と対策・対応のあり方」-看護学の専門分化と統合に関連して 3. わが国の法・制度の基本構造とコミュニティヘルス、およびヘルスプロモーション 4. コミュニティヘルスに必要な社会資源:人(専門職・住民)・物(機器・施設)・金(財政、税他) 5. コミュニティのヘルスケアにおけるチームアプローチ・チーム医療-連携と役割分担と協働 6. コミュニティヘルスにおける母子保健と地域保健の連携と役割分担と協働1 7. コミュニティヘルスにおける母子保健と地域保健の連携と役割分担と協働2 8. コミュニティヘルスの立場から学校保健と地域保健の連携と役割分担と協働1 9. コミュニティヘルスの立場から学校保健と地域保健の連携と役割分担と協働2 10. コミュニティにおける包括的保健医療福祉の構築と継続看護の展開1 11. コミュニティにおける包括的保健医療福祉の構築と継続看護の展開2 12. コミュニティにおける包括的保健医療福祉の構築と継続看護の展開3 13. コミュニティヘルスに係わる看護職のコンピテンシー1 14. コミュニティヘルスに係わる看護職のコンピテンシー2 15. “分析し、統合せよ、そして社会に役立てよ！”		
【到達目標】 1. コミュニティの健康課題の原因と対策のあり方を理解する 2. ヘルスケア・チーム医療を理解し、法・制度・社会資源を組織的・計画的に活用できる 3. 看護学の分化と統合を理解し、自らのコンピテンシーを培う			【テキスト】 適宜提示する		
【準備学習の内容】 各看護学領域の専門性を磨くこと、実社会を知ること、これまで様々な形で学習してきた自然科学及び人文社会科学の実用的な理解が必要である。			【参考図書】 適宜提示する		
【留意事項】 コミュニティヘルス看護学の実践には、各看護学領域の専門分化した分析的能力と、それらを統合し人々のニーズに適切に対応できる能力が求められる。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 レポート、プレゼンテーション、議論する力等を総合的に評価します。必要に応じて筆記試験等も行います。レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 コミュニティヘルス看護学演習			担当者 田村・高木・福岡・目良		
単位数	4 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 コミュニティヘルスの立場から包括的保健医療福祉の構築と継続看護について研究事象の特質について理解を深め、研究事象とすべ課題、研究方法を各分野の研究課題から明確にする。			【学習内容(各回の授業予定)】 1.2. コミュニティヘルスの立場から包括的保健医療福祉の構築と継続看護について研究事象を理解する(高木) 3.4. コミュニティにおける包括的保健医療福祉の構築と継続看護について看護事象の検討(高木) 5.6. 分析し、統合し、そして社会に役立てるための検討(高木) 7.8. コミュニティにおける母子保健領域における看護事象の検討1 9.10. コミュニティにおける母子保健領域における看護事象の検討2 11.12. 学校保健領域における事象と養護活動との関連について文献検討 - その1(田村) 13.14. 学校保健領域における事象と養護活動との関連について文献検討 - その2(田村) 15.16. 学校保健領域における事象と養護活動に関するフィールドワーク(田村) 17.18. 学校保健領域における事象と養護活動に関するフィールドワーク(田村) 19.20. フィールドワーク結果プレゼンテーション(田村) 21.22. 公衆衛生看護の効果的な展開方法に関して研究事象を理解する(福岡・目良) 23.24. 公衆衛生看護の効果的な展開方法に関する文献検討1(福岡・目良) 25.26. 公衆衛生看護の効果的な展開方法に関する文献検討2(福岡・目良) 27.28. 公衆衛生看護の効果的な展開方法に関する文献検討3(福岡・目良) 29.30. レポート発表・まとめ(田村・高木・福岡・目良)		
【到達目標】 コミュニティにおける保健医療福祉の研究事象特質や研究方法の特質について実地に調べ、討論の素材を作成すると共に、討論の実施、討論の成果を集約を行うことが出来る。			【テキスト】 適宜提示する		
【準備学習の内容】 各看護学領域の専門性を磨くこと、実社会を知ること、これまで様々な形で学習してきた自然科学及び人文社会科学の実用的な理解が必要である。			【参考図書】 適宜提示する		
【留意事項】 本科目は、コミュニティヘルス看護学特論と連動している。したがって、コミュニティヘルス特論とコミュニティヘルス演習を併せて履修することが望ましい。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業への主体的参加を重視する。準備活動への参画状況、出席状況、各段階にて求めるレポートの成果を総合して評価する。レポート等については、講評を行う。					

授業科目名				母子看護学特論		担当者	
単位数	2	単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次
						大学院	1年
【授業概要】				【学習内容(各回の授業予定)】			
<p>女性の各期のライフステージおよび、困難で複雑な健康問題を抱えた母子と家族に提供するためのより高度な看護実践能力を育成するために、対象の理解とアセスメントに必要な知識と基礎的能力を習得し、看護実践に活用する基盤を形成する。</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 母子領域を理解するための理論の理解 2. 女性の各期のライフサイクルにおける健康課題と看護支援 3. 生殖医療と倫理的課題に関する現状の理解 4. セクシュアルヘルス・ライツに関する現状の理解と看護支援に関する検討 5. ウイメンズヘルスとライフスキル 6. 母性における家族看護の理解 7. 子どもの健康問題が成長発達に与える影響の理解 8. 健康問題を抱える子どもと家族を取り巻く保健医療体制の現状の理解 9. 子どもと家族を取り巻く倫理的課題と達成目標の検討 10. 健康問題を抱える子どもの課題を達成するための看護方略の検討 11. 社会・保健・福祉・教育などの状況をふまえた、関連領域との連携の現状と課題の探究 12. 子どもが育つ環境①(愛着) 13. 子どもが育つ環境②(空間, 遊び) 14. 環境が子どもの成長・発達に与える影響 15. 障害をもつ子どもが育つ環境 			
【到達目標】				【テキスト】			
<p>1. 母子を取り巻く現状と環境を理解するとともに、倫理的課題を踏まえて家族看護の視点で対象理解と支援のあり方を考えることができる 2. 健康問題を抱える子どもの成長発達や取り巻く現状を理解し、心理・社会的問題が子どもにもたらす影響から、健康問題を抱える子どもとその家族への支援を検討する 3. 環境が子どもに与える影響を理解し、子どもの健やかな心身の発達を促す環境を考え、課題を見出すことができる</p>				<p>必要に応じその都度提示する</p>			
【準備学習の内容】				【参考図書】			
<p>富岡: 家族の発達、生殖医療と倫理について学習しておく 松本: 愛着理論について学習しておく</p>				<p>なし</p>			
【留意事項】							
<p>特になし</p>							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】							
<p>演習への事前準備、出欠状況、授業への参加度や貢献度、レポートなど総合的に評価する。レポートなどはコメントをして返却をする。</p>							

授業科目名				母子看護学演習		担当者	
単位数	4	単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次
						大学院	1年
【授業概要】				【学習内容(各回の授業予定)】			
<p>生涯発達および家族関係構築の視点で、母子領域における関心をもつテーマを決め、諸外国、国内の文献を検討し研究計画を立案する</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1.2. オリエンテーション 母子を取り巻く環境と課題について事前学習をふまえて討議を行う 3.4. 関心のある母性看護領域に関するテーマの設定、文献検索 5.6. 母性領域での文献の系統的レビューとクリティーク 7.8. 母性領域における研究計画書の作成 9.10. 効果的プレゼンテーションの方法と演習 11.12. 母性における家族看護の理解 13.14. 小児看護領域を取り巻くソーシャルサポートについて検討する 15.16. 保健・医療・福祉・教育における小児に関連する文献をよみ、研究目的や研究方法について、クリティークする。 17.18. 保健・医療・福祉・教育における小児に関連する文献をよみ、研究目的や研究方法について、クリティークする。 19.20. 保健・医療・福祉・教育における小児に関連する文献をよみ、研究目的や研究方法について、クリティークする。 21.22. 保健・医療・福祉・教育における小児に関連する文献をよみ、研究目的や研究方法について、クリティークする。 23.24. 保健・医療・福祉・教育における小児に関連する文献をよみ、研究目的や研究方法について、クリティークする。 25.26. 母子看護領域に関する論文抄読会 27.28. テーマに基づく看護の現状に関するプレゼンテーション① 29.30. テーマに基づく看護の現状に関するプレゼンテーション② 			
【到達目標】				【テキスト】			
<p>1. ウイメンズヘルス、リクロダクティブヘルス・ライツに関する、一連の研究に必要な知識・方法の理解ができる 2. 小児を取り巻く看護及び関連領域の研究の動向について探索する。 3. 自己の研究課題を見出すために、国内外の論文をクリティークすることができる。</p>				<p>必要に応じその都度提示する</p>			
【準備学習の内容】				【参考図書】			
<p>富岡: 関心のある母性領域のテーマの事前学習 松本: 研究論文のクリティーク方法を勉強しておく</p>				<p>なし</p>			
【留意事項】							
<p>特になし</p>							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】							
<p>事前準備、出欠状況、授業への参加度や貢献度、レポートなど総合的に評価する。レポートなどはコメントをして返却をする。</p>							

授業科目名 精神看護学特論 I			担当者 揚野 裕紀子・澤田 由美		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 卓越した精神看護を行うために必要な精神保健医療福祉に関する法律、制度、政策について学び実践に適用する能力を育成すると共に、精神看護の歴史や現状を理解した上で、患者と家族の基本的な人権を保障し、ノーマライゼーションの実現をめざす精神医療の展望を探求する。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉法思想と現行 2. 精神障害者の人権擁護と法 3. 世界の精神看護の歴史と精神に障害を持つ人の人権 4. 日本の精神看護の歴史と精神に障害を持つ人の人権 5. 精神障害者ノーマライゼーションの国際的動向とその具体的取組 6. 日本におけるノーマライゼーションの理念を促進する法律と制度の現状 7. 日本におけるノーマライゼーションの理念を促進する法律と制度のあり方と課題 8. 医療観察法の現状と課題 9. 精神障害者の入院支援の功罪:リハビリテーションと社会化 10. 精神障害者を取り巻く社会資源の現状と課題 11. 精神障害者の自立支援と家族支援 12. ソーシャルサポート—生活支援制度と社会資源の開発 13. ケースマネジメントと精神保健医療福祉にかかわる専門職と連携 14. エンパワメントとセルフヘルプグループ 15. 高度実践看護師の機能と役割、その展望 		
【到達目標】 世界及び日本の精神看護の歴史を理解し、精神に障害を持つ人の権利擁護に生かし、ノーマライゼーションの理念を実現する為の世界的な動向を理解し、日本の現状との比較により今後の課題を考察出来る。			【テキスト】 適宜紹介		
【準備学習の内容】 世界及び日本の精神看護の現状と今後の課題について関心を深める。			【参考図書】 精神保健白書編纂委員会編:精神保健福祉白書、中央法規、2015 トリエステ精神保健局編、古山昭夫訳:トリエステ精神保健サービスガイド—精神病院の、現代企画室、2006		
【留意事項】 臨床での実践と関連付けて学習すること					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席、授業への参加度(発表、討議)、レポートで総合的に評価する。 レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 精神看護学演習 I			担当者 揚野 裕紀子・澤田 由美		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 科学的・実践的な精神専門看護師に必要な、精神障害患者の短期精神療法と長期精神療法を実践し、事例をもとに文献を活用して検討し実践例から学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 1対1の短期精神療法 2. 1対1の短期精神療法 3. 1対1の短期精神療法 4. 1対1の短期精神療法 5. 1対1の短期精神療法 6. 1対1の長期精神療法 7. 1対1の長期精神療法 8. 1対1の長期精神療法 9. 1対1の長期精神療法 10. 1対1の長期精神療法 11. 1対1の長期精神療法 12. 1対1の長期精神療法 13. 精神療法の振り返りと課題の明確化 14. 精神療法と倫理的課題 15. 精神専門看護師に必要な精神療法のセラピーと倫理に関する検討 		
【到達目標】 精神障害者や対象者の演習をもとに短期精神療法・長期精神療法について考察を行い、精神療法を実践する際に生じる倫理的課題を含めた様々な課題について検討し、精神療法について技法を深める			【テキスト】 適宜紹介する		
【準備学習の内容】 特になし			【参考図書】 適宜紹介する		
【留意事項】 実際の精神科病院や一般病院で演習を行う。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席、授業への参加度(発表、討議)、レポートで総合的に評価する。 レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 特別研究			担当者 田村・揚野・人見・村田・高木・福岡・渡邊・澤田・奥山		
単位数 10 単位	開講期 通年	区分 選択科目	配当年次 大学院 1-2年		
【授業概要】 特論・演習で学んだことを基盤に、各専門領域の研究テーマを設定し、担当指導教員の指導・助言のもと研究計画の立案、データ収集と分析、修士論文作成までの研究プロセスを実践し、研究論文を完成させる。		【学習内容(各回の授業予定)】 <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学に関連する研究について学生の関心の深い課題に応じた研究の計画、実施、成果の発表までのプロセスを指導する。【揚野・澤田】 ・成人看護学に関連する研究について学生の関心の深い課題に応じた研究の計画、実施、成果の発表までのプロセスを指導する。【村田】 ・コミュニティヘルス看護学に関連する研究について学生の関心の深い課題に応じた研究の計画、実施、成果の発表までのプロセスを指導する。【田村・高木・福岡】 ・感染看護学に関連する研究について学生の関心の深い課題に応じた研究の計画、実施、成果の発表までのプロセスを指導する。【渡邊】 ・在宅看護学に関連する研究について学生の関心の深い課題に応じた研究の計画、実施、成果の発表までのプロセスを指導する。【人見・奥山】 ・補完代替医療を含めた内科学、慢性期・終末期医療管理学に関する研究について学生の関心の深い課題に応じた研究の計画、実施、成果の発表までのプロセスを指導する。【村田】 			
【到達目標】 該当する各専門領域で、研究論文を完成させ、プレゼンテーションを行う。					
【準備学習の内容】 各教員が提示する					
【留意事項】 特になし					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 論文作成の過程および論文審査・最終試験により評価する。 必要とされる事項については、講評を行う。		【テキスト】 各教員が適宜紹介する 【参考図書】 各教員が適宜紹介する			

授業科目名 精神看護学特論Ⅱ			担当者 揚野 裕紀子・澤田 由美		
単位数 2 単位	開講期 前期	区分 選択科目	配当年次 大学院 1年		
【授業概要】 科学的・実践的な精神専門看護師に必須の精神障害者の理解とアセスメントについて学び、精神的な課題を持つ人の評価に関する基礎的能力を習得し、入院精神看護及び地域精神看護の基盤を形成する。		【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. DSM-5とICD-10で模擬事例を診断する。統合失調症 2. DSM-5とICD-10で模擬事例を診断する。気分障害 3. 全般的精神状態 GAF 4. 陰性陽性症状評価 PANSS、BPRS 5. 認知機能評価 6. 日常生活能力の評価(ADL) セルフケア理論 7. 日常生活能力の評価(ADL) 8. アルコール依存評価、久里浜式スクリーニング 9. 退院可能性の評価 退院準備評価尺度 10. 社会適応能力評価 再発予防、クライシスプラン、服薬管理、対処能力 11. 認知行動療法の評価 12. 自殺のリスク評価 13. 自殺のリスク評価 14. ケアとアウトカム評価 15. 様々な評価を精神専門看護師が活用する可能性 			
【到達目標】 1.精神障害の診断を理解する。2.日常生活機能、精神症状、社会適応能力、退院可能性の評価について理解する。					
【準備学習の内容】 DSM-5とICD-10を予習する。					
【留意事項】 実践と関連付けて学習する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席、授業への参加度(発表、討議)、レポートで総合的に評価する。 レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。		【テキスト】 精神科臨床評価検査法マニュアル[改訂版]、臨床精神医学、2010 【参考図書】 適宜紹介する			

授業科目名 精神看護学特論Ⅲ			担当者 揚野 裕紀子・澤田 由美		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	大学院 1年		
【授業概要】 科学的・実践的な精神専門看護師に必要な、精神療法(セラピー)に関する理論と技法について学び、入院精神看護及び地域連携精神看護での実践に活用する基盤を形成する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 精神療法について 2. 精神専門看護師に必要な治療技法 3. 個人精神療法の諸理論 4. 個人精神療法の諸理論 5. 集団精神療法の諸理論 6. 集団精神療法の諸理論 7. 家族療法の諸理論 8. 家族療法の諸理論 9. CVPPP 10. SST 11. 心理教育 12. サイコエデュケーション 13. 早期発見・早期介入 14. 精神科アウトリーチの技法 15. 海外の精神科アウトリーチの技法		
【到達目標】 個人精神療法・集団精神療法・家族療法・CVPPPについて学び、看護実践に活用できる。生活を支える力を支えるSSTと心理教育・精神科アウトリーチの手法を理解する。			【テキスト】 適宜紹介		
【準備学習の内容】 精神障害者と家族に対する治療技法を復習する。			【参考図書】 適時紹介		
【留意事項】 様々な治療技法を実際の臨床経験と結び付けて理解する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 実践と関連付けて学習する。					

授業科目名 精神看護学特論Ⅳ			担当者 揚野 裕紀子・澤田 由美		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	大学院 1年		
【授業概要】 精神専門看護師としての役割と機能を果たすための基盤になる精神のとらえ方について理解する。特に、精神専門看護師に必要な諸理論と技法について学び、実践への応用について検討する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 精神科看護及びメンタルヘルスにおける高度精神看護師の役割と機能 2. 対人関係の看護理論とコミュニケーション 3. オレムのセルフケア理論における対象理解の方法 4. アンダーウッドによる修正モデルにおける対象理解の方法 5. アンダーウッドによる修正モデルにおける対象理解の方法-事例の検討 6. 家族看護エンパワメントモデルを用いて家族理解の方法 7. 家族看護エンパワメントモデルを用いて家族理解の方法⇒事例の検討 8. 精神科ケースマネジメント 9. 精神科ケースマネジメント⇒事例の検討 10. 医療チームの展開-対応困難な事例の検討 11. 不安と抑うつ-自殺予防と他専門職との連携 12. 攻撃的な患者とのコミュニケーション 13. 児童、思春期、高齢者の課題と支援 14. 看護師が怒りを感じる患者の支援システムのアセスメント、組織への支援 15. 高度精神専門看護師の果たすべき役割と方向性について討議		
【到達目標】 メンタルヘルス領域において支援する為の概念や理論、対人関係論、セルフケア等基礎概念や理論が理解でき、リエゾン精神看護における対象理解のあり方を理解し、対象のアセスメントに活用できる。			【テキスト】 適宜紹介		
【準備学習の内容】 授業範囲を予習し、理解を深めておくこと			【参考図書】 適宜紹介		
【留意事項】 実践と関連付けて学習する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席、授業への参加度(発表、討議)、レポートで総合的に評価する。レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 精神看護学特論V			担当者 揚野 裕紀子・澤田 由美		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 専門看護師として慢性期・長期入院患者に対してその疾患から来る特徴を十分に理解して、看護実践をおこなう為の理論と援助実践について学び、実践する技法を理解する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 慢性期・長期入院患者に対する高度精神専門看護師の役割と機能 2. 慢性期における治療の特徴と課題 3. 治療的環境(抑制、支持、構造、参加、承認)の有効性の測定 4. 慢性期における患者の自己概念の特徴と援助技法 5. 潜在的リスクを減少させる為の査定 6. セルフケア不足に対する援助の検討 7. 障害者のエンパワメントの視点 8. 障害者のエンパワメントの視点-事例検討 9. 心理教育と自己管理プログラム:慢性疾患セルフマネジメントプログラム 10. 心理教育と自己管理プログラム:慢性疾患セルフマネジメントプログラム-事例検討 11. 家族に関する理論と家族の機能 12. 家族に関する理論と家族の機能-事例検討 13. 精神障害者へのケアマネジメント 14. 精神障害者へのケアマネジメント-事例検討 15. 対応困難な慢性期・長期入院患者へ精神専門看護師が看護介入する役割と課題		
【到達目標】 慢性期における薬物療法、精神療法、社会療法、社会復帰の為の治療を理解し活用でき、意欲の低下や感情鈍麻などの障害を理解し社会復帰を目標にした援助実践ができる。			【テキスト】 適宜紹介		
【準備学習の内容】 対人関係論、セルフケア等の理論を復習する。			【参考図書】 適宜紹介		
【留意事項】 実践と関連付けて学習する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席、授業への参加度(発表、討議)、レポートで総合的に評価する。 レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 精神看護学特論VI			担当者 揚野 裕紀子・澤田 由美		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 地域精神看護領域において卓越した地域リハビリテーションなど看護実践をおこなうために必要とされる理論と援助技法について理解する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 地域精神看護に対する高度精神専門看護師の役割と機能 2. 地域におけるケアの構造 3. 地域におけるケアの構造-事例検討 4. 欧米における地域を基盤とするケアマネジメントモデル 5. 欧米における地域を基盤とするケアマネジメントモデル-事例検討 6. ACT(包括的地域生活支援プログラム) 7. ACT(包括的地域生活支援プログラム)-事例検討 8. CBCM(集中型包括型ケアマネジメント) 9. CBCM(集中型包括型ケアマネジメント)-事例検討 10. 地域援助サービスプログラム 11. 地域援助サービスプログラム-事例検討 12. 英国における地域連携精神看護のシステム 13. 英国における地域連携精神看護のシステム-事例検討 14. 英国における地域連携精神看護のシステム 15. 日本における地域連携精神看護の方向性		
【到達目標】 困難事例に対する精神障害者の地域連携を実践し、諸外国の地域連携プログラムについて検討し政策提言ができる。			【テキスト】 適宜紹介		
【準備学習の内容】 授業範囲を予習し、理解を深めておくこと			【参考図書】 適宜紹介		
【留意事項】 実践と関連付けて学習する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席、授業への参加度(発表、討議)、レポートで総合的に評価する。 レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 精神看護学特論Ⅶ			担当者 揚野裕紀子・澤田由美・岩切真砂子・早川昌子		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 リエゾン精神看護の発展の歴史について学びその機能と役割を理解し、一般科患者の精神的問題への診断や治療と直接的ケアやコンサルテーション能力を高めるために必要な知識や技術を深める。また、医療チームとの連携や看護師自身のメンタルヘルスにおける介入の実際を学び、実践への応用力を修得する。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. リエゾン精神看護の発展の歴史、目標、機能、役割(揚野) 2. 一般科患者の精神的問題のアセスメント(揚野) 3. } リエゾン精神専門看護師の行う直接的ケアの特徴(早川) 4. } 家族支援、リラクゼーション 等 (早川) 5. 精神的諸問題のアセスメントとケアの実際(澤田) 6. } 抑うつや不安の強い患者のアセスメントとケア(揚野) 7. } せん妄状態の患者のアセスメントとケア(早川) 8. } 死に直面している患者のアセスメントとケア(早川) 9. } 怒りの強い患者のアセスメントとケア(澤田) 10. } 身体的治療を受ける精神疾患患者の理解とケア(澤田) 11. 看護師のメンタルヘルス支援:心の問題とケアの実際(揚野) 12. 看護師のメンタルヘルス支援:職場適応が困難な看護師への支援(揚野) 13. 精神看護専門看護師の介入の実際:医療連携(岩切) 14. 精神看護専門看護師の介入の実際:精神的問題(岩切) 15. リエゾン精神看護専門看護師の役割開発(揚野・澤田) 		
【到達目標】 1.リエゾン精神看護の発展の歴史、目標、機能、役割について理解する。 2.リエゾン精神専門看護師の行う直接的ケアの特徴を理解する。					
【準備学習の内容】 リエゾン精神看護の文献を複数予習する。					
【留意事項】 リエゾン精神看護の研修の機会があれば積極的に参加する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席、授業への参加度(発表、討議)、レポートで総合的に評価する。 レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。			【テキスト】 野末聖香編:リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために-、医歯薬出版、2013		
			【参考図書】 適宜紹介する		

授業科目名 精神看護学演習Ⅱ			担当者 揚野 裕紀子・澤田 由美・岩切真砂子		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1年
【授業概要】 科学的・実践的な精神専門看護師に必要な多様な役割について理解する。直接ケア、リエゾン、コンサルテーション、調整者、教育者、研究者、政策提言の役割について理解を深める。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例をもとに急性期にある精神障害者への直接ケア 2. 司法精神看護 直接ケア 3. 司法精神看護 倫理的課題 4. 精神科リエゾン看護 5. 看護師のメンタルヘルス 6. 看護師のメンタルヘルス、看護カウンセリング 7. 精神看護コンサルテーション 8. 精神専門看護師の調整者としての役割 9. 看護スタッフ教育の計画と実践 10. 精神看護専門看護師の研究的取組 研究課題の明確化 11. 短期精神療法と長期精神療法から考えられる課題 12. 精神医療・看護のイノベーション 13. 地域精神医療の効果と課題 14. 精神障害者が安心して自立した生活をおくるための手法 15. 精神専門看護師の多様な役割と機能 		
【到達目標】 精神障害者や司法精神障害者について必要な直接ケアについて計画でき、リエゾン精神看護師や看護師のメンタルヘルスの支援やコンサルタント・スタッフ教育や研究的取組と看護研究助言者の役割について理解できる。					
【準備学習の内容】 精神看護演習Ⅰでの体験を基に深める。					
【留意事項】 演習記録と文献の活用					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席、授業への参加度(発表、討議)、レポートで総合的に評価する。 レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。			【テキスト】 適宜紹介		
			【参考図書】 適宜紹介		

授業科目名 精神看護学実習				担当者 揚野 裕紀子	
単位数	10 単位	開講期	通年	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1-2年
【授業概要】 精神専門看護師としての役割と機能を身につけるために、さまざまな精神の健康問題に問題をもつ患者や家族のケースを受け持ち更に、精神専門看護師の役割について、精神専門看護師と教員のスーパーバイズを受けて精神専門看護師の活動の実践をとおして、必要な高度なアセスメント能力、直接介入の能力を養う。左記における10単位の实習を実施する。			【学習内容(各回の授業予定)】 【実習時期】 2年履修:1年後期~2年前期、3年履修:1年後期~2年後期を原則とする。 【実習場所】 岡山県精神科医療センター、慈生病院、河田病院、東京武蔵野病院、東京女子医科大学病院、関西労災病院等 【実習内容】 1.精神看護専門看護師の役割実習、コンサルテーション・コーディネーション実習精神看護専門看護師がいる病院で専門看護師の6つの機能(直接ケア、コンサルテーション、教育、研究、調整、倫理調整)を果たすために必要な知識、技術、態度を学ぶ。(役割機能・コンサルテーション・コーディネーション実習:2単位)(揚野) 2.医療施設等において精神障害者に対する医療の実践について精神科診断・治療実習(精神科診断・治療実習:2単位相当)(揚野) 3.医療施設等において入院している精神の健康問題を持つ人とその家族を受け持ち直接的ケアを実施する。(直接ケア実習:4単位)(揚野) 4.専攻分野専門科目(サブスペシャリティ:精神看護・リエゾン看護)領域における直接ケアを実施する。(2単位相当)(揚野)		
【到達目標】 精神専門看護師の役割機能・コンサルテーション、精神科診断・治療、医療施設において直接的看護介入を評価することで高度看護実践能力を習得する(直接ケア実習)。			【テキスト】 適時紹介する。		
【準備学習の内容】 共通科目や精神看護学特論、精神看護学演習の学習を確認し、実践力を身につける準備を整えておく。			【参考図書】 適時紹介する。		
【留意事項】 実習施設は、個人の経験とサブスペシャリティを考慮して選定する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 スーパーバイズをする精神専門看護師の意見も参考にしながら看護実践場面と課題レポートで評価する。レポート等について必要とされる事項については、講評を行う。					

授業科目名 課題研究				担当者 揚野 裕紀子・澤田 由美	
単位数	2 単位	開講期	通年	区分	選択科目
				配当年次	大学院 1-2年
【授業概要】 専門看護師資格取得希望者が、当該看護専門領域における特定の課題に対して、担当指導教員の指導・助言のもと課題研究論文を完成させる。			【学習内容(各回の授業予定)】 【揚野】 精神看護専門看護師の教育内容と倫理的基盤を踏まえた研究計画書を作成し、修論の形態をとる。 【澤田】 精神看護専門看護師の教育内容と倫理的基盤を踏まえた研究計画書を作成し、修論の形態をとる。		
【到達目標】 該当する各専門領域で、課題研究を完成させ、プレゼンテーションを行う。			【テキスト】 適時紹介する。		
【準備学習の内容】 各教員が提示する			【参考図書】 適時紹介する。		
【留意事項】 特になし					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 課題研究の作成過程および研究審査・最終試験により評価する。必要とされる事項については、講評を行う。					